

製品名: Vangl1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19711**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 50kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | VANGL1 |
| 別名 | VANGL1; STB2; Vang-like protein 1; Loop-tail protein 2 homolog; LPP2; Strabismus 2; Van Gogh-like protein 1 |
| 遺伝子 ID | 81839.0 |
| SwissProt ID | Q8TAA9 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト VANGL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 301-350 |

背景

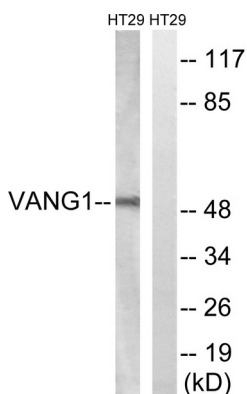
この遺伝子はトレトラスパニンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、腸粘膜における腸トレ

フォイル因子誘導性の創傷治癒に関与している可能性があります。この遺伝子の変異は神経管閉鎖障害と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2010年2月]、疾患：VANGL1の欠陥は神経管閉鎖障害（NTD）の原因です[MIM:182940]。NTDは先天性奇形です。NTDの最も一般的な形態は、開放性欠損（無脳症、脊髄髄膜瘤、または二分脊椎を含む）として説明されており、これらはそれぞれ神経管の頭蓋部と脊髄部の癒合不全によって生じます。その他の開放性癒着異常（脊髄裂、片側脊髄髄膜瘤、片側脊髄瘤など）は、キアリ2型奇形を伴うことがあります。皮膚に覆われた（閉鎖性）脊髄疾患の多くは、皮下腫瘍の有無（脂肪脊髄裂、脂肪脊髄髄膜瘤、髄膜瘤、脊髄嚢胞）またはそのような腫瘍の非存在（脊髄分裂奇形、皮膚洞、脊髄尾部退縮、分節性脊髄形成不全を含む複雑性癒着異常）に応じて臨床的に分類されます。疾患：VANGL1遺伝子の欠陥は、前方髄膜瘤を伴う仙骨欠損（SDAM）[MIM:600145]の原因です。SDAMは脊髄尾部形成不全の一種です。出生時に存在し、通常は女性における閉塞性分娩、慢性便秘、または髄膜炎により、後年になって症状が現れる。遺伝形式は常染色体優性である。類似性：Vangファミリーに属する。サブユニット：C末端領域を介してDVL1、DVL2、およびDVL3のN末端側と相互作用する。この相互作用にはDVL1、DVL2、およびDVL3のPDZドメインが必要である。組織特異性：普遍的（PubMed:11956595）。精巣と卵巣に特異的に発現する（PubMed:12011995）。

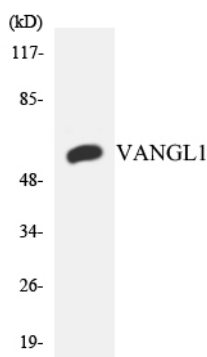
研究分野

WNT;WNT-T細胞

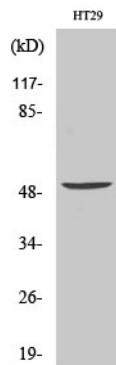
画像データ



VANGL1抗体を用いたHT-29細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



VANGL1抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



Vangl1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。